

本書は、英語によるCrédit Agricole SA 2012 年度第3四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。

疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2012年11月9日 モンレージュ

2012年度第3四半期及び9ヶ月間累計

当グループの着実な前進

- ・ エンポリキ売却の合意を締結
- ・ 事業適応計画は当初目標を上回る達成
- ・ ビジネスの見直しによる大きな進展

業績結果は、事業見直しに伴う特例的取引による会計上の影響を反映
(エンポリキ、CAシュブルー、バンキンター)

リテール・バンキング関連部門の堅調な事業展開により、特定項目調整後の
業績結果は、年初以来継続して上昇

地域銀行の業績とクレディ・アグリコルS.A.の事業部門のパフォーマンスにより
ギリシャ関連の影響を十分に吸収

クレディ・アグリコル・グループ*

地域銀行の目覚ましい業績とソルベンシー・レシオの改善

2012年度第3四半期純利益グループ帰属分: -22億700万ユーロ

地域銀行の純利益グループ帰属分への寄与+8億5,300万ユーロ

2012年9ヶ月累計純利益グループ帰属分: -5億4,000万ユーロ

地域銀行の純利益グループ帰属分への寄与+26億8,700万ユーロ

コア・ティア1レシオ: 11.3% (+110bp / 2011年12月)

短期負債額(1,330億ユーロ)を上回る手元流動性準備金: 2,010億ユーロ

* クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行100%を含む

クレディ・アグリコルS.A.

困難なビジネス環境を克服し堅調な業績結果達成

純利益グループ帰属分: 2012年第3四半期-28億5,200万ユーロ、2012年9ヶ月累計-24億8,900万ユーロ

特定項目調整後純利益グループ帰属分: 2012年度第3四半期7億1,600万ユーロ*

2012年9ヶ月累計24億6,600万ユーロ*

エンポリキ売却による純利益グループ帰属分への影響額: 2012年度第3四半期-19億5,900万ユーロ

ギリシャ(エンポリキを含む)関連の純利益グループ帰属分への影響額: 9ヶ月累計で-32億3,100万ユーロ

ティア1レシオ: 11.6%、コア・ティア1: 9.3% (+70 bp / 2011年12月)

* 除外項目: 社債発行の再評価、エンポリキ、シュブルー、事業適応計画、のれんの減損処理費用、2012年度第3四半期のバンキンター連結除外に伴う損失と社債発行の再評価(コーポレート・センターを含む)、ギリシャ関連費用、ハイブリッド証券買い戻し、売却の実現損失、2012年上半期のインテサ・サンパオロとSACAM株式の償却。

クレディ・アグリコル・グループ

2012年第3四半期にクレディ・アグリコル・グループは幾つかの分野で著しい前進を遂げました。

- エンポリキ売却の最終合意締結。
- 2011年12月に発表された事業適応計画の完了（計画目標を上回る達成）。
- クレディ・アグリコルS.A.の事業活動の見直しによる大幅な進展。

グループ業績結果は地域銀行による優れたパフォーマンスが100%反映されています。地域銀行は引き続きフランスの顧客に対する金融サービスの提供に力を注ぎました。2012年度第3四半期の地域銀行の純利益は8億5,300万ユーロで、9ヶ月累計では26億8,700万ユーロとなりました。この業績結果は、力強い事業展開を反映しています。2012年度第3四半期の預金残高は前年同期比3.8%増加し、ローン残高は2012年9月30日現在で2011年9月30日時点比1.7%増の3,949億ユーロとなりました。特に住宅ローンは3.0%の上昇。地域銀行は、2012年度第3四半期に収益が3.9%増加しました。一方で貸出/預金比率は2011年12月31日時点の129%、2012年6月30日時点の127%から、126%へと引き続き改善しました。

クレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、地域銀行とLCLが4,830億ユーロのローンを組成することによって、当グループがフランス経済における金融サービス会社としてのリーダー的役割を維持したと述べました。

地域銀行の良好なパフォーマンスに加えて、当グループの業績結果は全ての事業部門での堅調な事業展開を反映しています。また業績結果はクレディ・アグリコルS.A.の事業活動の見直しに関連する会計上の特例的取引の影響も反映しています。特にエンポリキとCAシュブルーの売却とバンキンターの連結除外措置が挙げられます。全体では、2012年度第3四半期の純利益グループ帰属分は-22億700万ユーロで、2012年9ヶ月累計では-5億4,000万ユーロでした。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、ソルベンシーに関して、当グループは財務の健全性を強化したことを再確認しました。2012年9月30日のコア・ティア1レシオは11.3%で、2012年6月30日時点と比較して安定しており、2011年12月31日時点比110ペーシス・ポイント高くなっています。このレシオは地区金庫(Local Banks)の株式の発行(第3四半期は1億6,000万ユーロ)と事業適応計画がリスク・ウェイト資産に及ぼす影響も含めています。当グループは、2013年末までにバーゼル3を完全に満たし、10%以上の普通株式ティア1レシオを達成するという目標も改めて表明しました。この目標は監督規制の要件を上回りますが、当グループのグローバルレベルにおいてシステム上重要な銀行(GSIB、1%)としての必要バッファを満たすものでもあります。

Crédit Agricole S.A.クレディ・アグリコルS.A.

2012年度第3四半期と9ヶ月間累計の業績見直しのために、2012年11月8日、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

2012年第3四半期の純利益グループ帰属分は-28億5,200万ユーロ、2012年9ヶ月累計では-24億8,900万ユーロとなりました。これは、エンポリキ売却に伴う全ての損失とコストを勘案した影響額-19億5,900万ユーロを含んでいます。また、純利益グループ帰属分は2012年度第3四半期中のクレディ・アグリコルS.A.とCA-CIBの質的改善とそれに伴う会計上の影響も反映しています。当グループ自身の信用リスクに関連する既存社債再評価の影響は-6億4,700万ユーロでした。また、事業の見直しでクレディ・アグリコルS.A.が取り組んだ主な対応策によって生じたマイナスの影響も含まれています。

- 継続中のCAシュブルー売却に伴う-1億8,100万ユーロ
- 2012年8月末に持分が20%を下回ったバンキンターの連結除外による-1億9,300万ユーロ
- 消費者金融部門ののれんの減損費用の-5億7,200万ユーロ

クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、これら特定項目調整後純利益グループ帰属分は7億1,600万ユーロになると述べました。厳しい経済状況が長引く中で、事業適応計画が成功したことと事業再編中の部門の取引額を削減したことを考慮に入れると、当期の業績結果は堅調な事業パフォーマンスを反映しているといえます。

リテール・バンキングと資産管理部門は、低迷する経済においても堅調な事業展開を見せました。両部門とも事業活動が伸びています。フランス国内のリテール・バンキングでは、オン・バランスシートの預金残高が12ヶ月間で7.7%増加し、ローン残高は高水準だった2011年と比較しても1.3%増加しています。資産管理部門では、2012年9ヶ月累計の運用資産は565億ユーロ増加し（マーケットと為替のプラスの影響額478億ユーロを含む）、2011年12月31日時点比5.6%増となりました。特に生命保険部門は好調に推移し、2012年度第3四半期は新規流入額が純額でプラスとなりました。

リテール・バンキングでは、2012年度第3四半期の業績結果は、例年のシーズン要因による影響を反映しています。2012年度第3四半期の地域銀行の寄与は、前年同期比で僅かに3.5%減少しました。LCLでは、純利益グループ帰属分が当期中に11.0%減少しましたが、9ヶ月間では安定していました。カリパルマでは、純利益グループ帰属分の減少幅は大きく、-44.5%でした。これは営業総利益が低かったこととリスク関連費用が高かった（2012年度第3四半期は前年同期比14.3%増加したものの、前期比では横這い）ことによるものです。

資産管理部門では、2011年度第3四半期の業績結果は金融危機の影響を、また保険部門においてはユーロ圏包括合意のギリシャ支援策による影響を受けましたが、当期純利益グループ帰属分は4億600万ユーロでした。業績結果内容は、クレディ・アグリコル・アシュアランスでは2億5,200万ユーロ、アムンディは8,100万ユーロ（+43.8%）、資産運用サービスでは4,200万ユーロ（+30%）、プライベート・バンキングでは3,000万ユーロ（+7.1%）と、全ての事業部門で高水準を維持しています。

2011年9月に事業再編を開始した2つの事業部門、法人及び投資銀行部門と専門金融サービス部門は引き続きビジネス活動を押しやりクイディティを削減することができました。専門金融サービスからの寄与は、イタリアの経済悪化によりマイナスの影響を受けましたが、CIBは堅調な業績結果を達成しました。2012年度第3四半期(-15.0%)と2012年9ヶ月累計(-16.6%)ではそれぞれ特定項目調整後の純利益¹は僅かな減少に留まりました。

クレディ・アグリコルS.A.は引き続き流動性とソルベンシーを強化しました。2012年9月末現在のコア・ティア1レシオは9.3%で、エンポリキの連結除外を考慮に入れた調整後ベースでは9.8%となりました。2012年9月末現在では、即時利用可能な現金準備金は2,010億ユーロに達し、短期負債は1,330億ユーロでした。2011年6月から2012年9月の間に短期市場での負債は純額で520億ユーロ削減され、事業適応計画の目標額450億ユーロを上回りました。クレディ・アグリコルS.A.は中・長期債発行計画でも目標額を超えています。2012年は50億ユーロの削減を決め120億ユーロの目標額が設定されましたが、2012年1月1日から10月31日の間に171億ユーロを調達しました。当グループの支店ネットワークを通して、追加資金調達と発行プログラムが1月1日から実行され、その額は2012年9月30日現在148億ユーロに達しています。

社会的・環境的責任

クレディ・アグリコルS.A.は、SRI調査会社ノベシック(Novethic)により上位3社に選ばれました。

クレディ・アグリコルは、企業の社会的責任に関してノベシックが選定した31の大規模な欧州銀行及び保険会社のランキングでトップのフランスの銀行に選ばれました。

社会的責任に関する格付け機関であるノベシックによって行われた調査では、次の4つのSER基準によって評価されます。それらは、環境的基準、社会的基準、ガバナンス、商品 & サービスです。

同社は当グループによる以下の項目のベスト・プラクティスに高評価を与えました。

- 上級管理職の様々な賞与には社会的、環境的配慮が含まれている。
- ファイナンスと投資に、二酸化炭素の削減が関連している。
- 社会的問題に対処(株主、従業員、サプライヤー、社会との関係)している。

当グループにとって社会的責任に関する新たな課題

今年度9月に、クレディ・アグリコル・ノルド・フランス地域銀行(Crédit Agricole Nord de France)とCA-CIBは密接に協力し、ユーロ市場で社会的責任のある債券発行(ノール＝パド・カレー地域圏で発行)の唯一の主幹事となりました。これは2つの特別な意義を持ちます。

- 調達された資金は3つのセクターの特別なプロジェクトに割り当てられました。70%は輸送分野とインフラストラクチャー(内陸の水路、大量輸送専用の道路のプロジェクト)、20%がエネルギー分野(建物内のエネルギー効率の向上とエコ素材の産業を開発)、そして10%が生物多様性分野(地域の森林の開発)です。

¹ 継続事業は、社債発行の再評価、ローンヘッジ、事業適応計画の影響、CAシュブリーの影響を修正再表示しました。

- 当地域は社会的責任のある投資家に対し資金調達の対象となるプロジェクトのアンニュアル・レポートを提供します。

10月に、CA-CIBはエア・リキッド社 (Air Liquide) のための主に社会的責任のある投資家を対象とした5億ユーロの債券発行のアドバイザー及びブックランナーを務めました。この債券発行では、大部分がSRIのマンドートを保有する投資家に販売いたしました。その結果、エア・リキッド社は新たな資金調達源にアクセスすることが可能となりました。幾つかの公的、国家的発行体の先例に従ったエア・リキッド社はSRI投資家に対し、テーマを持つ債券を発行した初めての企業となりました。また、この債券はSRI格付け機関であるViegoによって格付けされた初めての発行債券となりました。

決算スケジュール

2013年2月20日	2012年度第4四半期及び2012年度決算発表
2013年5月7日	2013年度第1四半期決算発表
2013年5月23日	株主年次総会
2013年8月6日	2013年度第2四半期決算発表
2013年11月7日	2013年度第3四半期決算発表

Disclaimer

The figures presented for the nine-month period ending 30 September 2012 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the third quarter of 2012 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date.

クレディ・アグリコルS.A. 連結決算

(in millions of euros)	Q3-12	Change Q3/Q3*	9M-12*	Change 9M/9M*
Revenues	3,432	(31.9%)	13,245	(13.9%)
Operating expenses	(3,043)	(0.5%)	(9,214)	(1.0%)
Gross operating income	389	(80.3%)	4,031	(33.6%)
Cost of risk	(963)	(30.5%)	(2,695)	(2.8%)
Operating income	(574)	nm	1,336	(59.5%)
Equity affiliates	18	(92.7%)	658	(31.1%)
Net income on other assets	41	nm	77	nm
Change in value of goodwill	(572)	nm	(572)	nm
Income before tax	(1,087)	nm	1,498	(64.7%)
Tax	246	nm	(627)	(41.1%)
Net gain(loss) on held-for-sale operations	(1,946)	x 5.1	(3,219)	x 2.4
Net income	(2,787)	nm	(2,348)	nm
Minority interests	65	(16.0%)	141	(47.9%)
Net income Group share	(2,852)	nm	(2,489)	nm

* 2011年度、2012年度はIFRS第5号に従ってエンポリキとシュブルーの再分類を再修正表示してあります。

2012年度第3四半期と2012年9ヶ月累積のクレディ・アグリコルS.A.の**収益**は、それぞれ34億3,200万ユーロ、132億4,500万ユーロとなりました。2011年度第3四半期の収益には+4億100万ユーロの特殊要因が含まれていたのに対し、2012年度第3四半期の収益には、合計-10億6,200万ユーロの特殊要因が含まれています。

- クレディ・アグリコルS.A.とCA-CIBの自社発行の債券スプレッドの改善により-10億1,700万ユーロの評価損が生じました。そのうち、-6億4,600万ユーロはCIBに帰属し(2011年度第3四半期には+4億600万ユーロの影響額)、-3億7,100万ユーロはコーポレート・センターに帰属します(2011年度第3四半期はゼロ)。
- 事業適応計画の一環としてローン・ポートフォリオ売却による影響額が生じました。CIBは2011年度第3四半期の-500万ユーロに対して当期が-3,300万ユーロでした。専門金融サービス部門では2011年度第3四半期はゼロだったのに対し当期-1,200万ユーロでした。

営業費用は僅かに改善しました。2012年度第3四半期は前年同期比0.5%減少、2012年9ヶ月累計では前年同期比1.0%減少しました。

2012年度第3四半期の**営業総利益**は前年同期比80.3%減の3億8,900万ユーロとなりました。特殊要因を除いた場合、減少は-8.2%に留まりました。

2012年度第3四半期の**リスク関連費用**は、2011年度第3四半期の13億8,600万ユーロに対し、9億6,300万ユーロでした。2011年のリスク関連費用はユーロ圏包括合意のギリシャ支援策によるマイナスの影響に起因するものです。その結果、当期は前年同期比30.5%の減少となりました。

2012年9月末現在、不良債権残高(顧客とのファイナンス・リースを除く)は160億ユーロでした。IFRS第5号に従ってエンポリキを再分類した結果、前年同期比29.5%減少しました。リスク関連費用は、2011年9月末時点では顧客及び銀行間ローン総残高の4.4%、2011年12月末時点では4.6%に相当したのに対して、2012年度9月末では3.3%に相当しました。特定引当金によるカバー・レシオは引き続き増加し、2011年9月末時点の51.3%から2012年9月末現在では56.9%となりました。共同積立金を含めて、カバー・レシオは2011年12月末時点比6.9%増、2011年9月末時点比9.3%増の76.3%となりました。

関連会社の収益は、2011年度第3四半期の2億4,400万ユーロに対し、バンキンターの連結除外による影響額-1億9,300万ユーロを含め1,800万ユーロに達しました。2012年度第3四半期の地域銀行の寄与は、2011年度第3四半期比3.5%減の2億1,000万ユーロでした。

のれんの減損処理費用は-5億7,200万ユーロで、これは専門金融サービスの減損によるものです。

2011年度第3四半期の**税引前利益**は-10億8,700万ユーロで、法人税は当期中の特定項目に関連する3億7,100万ユーロのプラスの影響額を含む+2億4,600万ユーロでした。

2012年度第3四半期の**売却目的保有事業の純損失**は、エンポリキ売却に関連する影響額-17億6,500万ユーロと継続中のシュブルー売却に関連する影響額-1億8,400万ユーロを含めて、-19億4,600万ユーロに達しました。

2012年度第3四半期のクレディ・アグリコルS.A.の**純利益グループ帰属分**は-28億5,200万ユーロでした。特別項目(自社債の再評価、継続中のエンポリキとシュブルーの売却、事業適応計画による影響額、のれんの減損処理費用、バンキンターの連結除外に関連する損失)を除いた場合の純利益グループ帰属分は7億1,600万ユーロとなりました。

前倒しで実行される事業適応計画

当グループは2011年12月14日に発表された事業適応計画を引き続き実施しており、以下の主要な3項目に焦点を当てています。

- リテール・バンキング部門：貸出/預金比率の全般的な改善。
フランス国内、海外共に当グループの支店ネットワーク全般にわたって、オン・バランスシートの預金を伸ばし、ローン残高の伸びを管理し、貸出/預金比率を2011年6月末時点の128.8%から122.0%に改善しました。

- 専門金融サービス：流動性必要額の削減と資金調達手段の多様化。
消費者金融及びリース・ファイナンス、ファクタリング部門共に残高が抑制されました。7月にCAL&Fは、ローン・ポートフォリオを3億ユーロで売却しました。
同期間中に、新規の資金調達減が開発されました。主に預金による流入、証券化と債券発行によるもので、2012年度第3四半期の13億ユーロを含めて、2011年6月以降資金調達は51億ユーロ増加しました。2011年6月以降、CACFはドイツでリテール向けの預金ビジネスを立ち上げ、2012年9月末現在で約10億ユーロ調達しました。更に、7月にCACFはフランスで6億ユーロの証券化を実現しました。また、当期中にFGACはユーロMTN債発行によって5億ユーロの調達を行いました。
- CIB：引き続きローンの売却を行い、残高は抑えられています。ファイナンス事業のローン・ポートフォリオ売却は2012年度第3四半期中も行われ、割引率は低水準で維持されました（第3四半期中には9億ユーロ売却。売却開始から平均ディスカウント率2.3%で合計99億ユーロ売却されました。）

その結果、2012年9月末現在、資金調達必要額の削減目標の118%を達成しました。コリレーションブックの移転も含めて、リスク・ウェイト資産は510億ユーロ削減され、事業適応計画のリスク・ウェイト資産に関する目標は9月末で達成されました。

資金調達必要額の削減

€bn	Achieved in H2-11	Achieved in H1-12	Achieved in Q3-12	Total achieved at 30/09/12	Target from 30/06/11 to 31/12/12	% achieved
At current exchange rates						
Adjustment plan						
• Retail Banking	-9	-9	-3	-21	-23	
• Specialised financial services	-3	-4	-4	-11	-9	
• Adjustment plan	-1	-2	-3	-6		
• Securitisation and other measures	-2	-2	-1	-5		
• CIB	-11	-2	-14	-27	-18	
at constant exchange rates	-16	-4	-12	-32		
Total reduction of funding requirements	-23	-15	-21	-59	-50	118%
At constant exchange rates	-28	-17	-19	-64		

リスク・ウェイト資産の削減

€bn	Achieved in H2-11	Achieved in H1-12	Achieved in Q3-12	Total achieved at 30/09/12	Target from 30/06/11 to 31/12/12	% achieved
At constant exchange rates						
Adjustment plan						
• SFS (Basel 2.5)	-1	-3	-2	-6	~ -5	
• CIB	-11	-19	-1	-31	~ -30	
• Current impact (Basel 2.5)	-7	-6	-1	-14	~ -18	
• 2013 impact (Basel 3)	-4	-13	-0	-17	~ -12	
Total adjustment plan	-12	-22	-3	-37	~ -35	106%
Other measures						
• CIB – transfer of market risk of correlation book (net impact) (Basel 2.5)		-14		-14		
Total reduction of risk-weighted assets (including Basel 3 impacts)	-12	-36	-3	-51		

財務状況

2012年の9ヶ月間で、クレディ・アグリコルS.A.は財務ポジションを更に強固なものとなりました。2011年12月31日時点のコア・ティア1レシオが8.6%だったのに対し、2012年9月30日現在は9.3%となりました。2012年9ヶ月間のクレディ・アグリコルS.A.は、含み益の増加(41ベース・ポイント)、法人及び投資銀行部門と専門金融サービス部門における事業適応計画の継続(35ベース・ポイント)、コリレーション・ポートフォリオの売却完了(49ベース・ポイント)などから大きな寄与を受けました。

一方、第3四半期だけで、IFRS第5号に従って計上したエンポリキ関連の損失はコア・ティア1レシオに影響を及ぼしました。エンポリキのリスク・ウェイト資産は留保されたため、コア・ティア1レシオは30ベース・ポイント低下しました。エンポリキのリスク・ウェイト資産は売却の完了時に連結から除外されますが、連結除外を見込んだ場合のコア・ティア1レシオはプロフォルマ・ベースで9.8%になります。

2012年9ヶ月間で、リスク・ウェイト資産は350億ユーロ減少しました。これは主に事業適応計画とマーケットリスク関連コリレーションブックの移転によるものです。リスク・ウェイト資産は2011年12月31日時点の3,337億ユーロから2012年9月30日現在の2,983億ユーロに減少しました。

流動性

2012年9月30日現在、クレディ・アグリコル・グループの短期資金合計額(当グループのトレジャリー部門が市場にて調達した370日以内償還債券の発行済残高)は、2011年9月30日時点の1,350億ユーロに対して、1,330億ユーロに達しました。当グループは9月末現在380億ユーロの手元流動性資金を保有しており、これは米ドルとユーロによる中央銀行へのオーバーナイト預金に相当します。

第3四半期末のドル資金のポジションは2012年6月30日時点に対し僅かに改善しました。米国での資金調達が増加し、2012年度第2四半期は短期資金合計額の5%だったのに対し、当四半期は8%となりました。米ドル建ての資金の割合も増加し、2012年6月30日時点の21%に対して24%に達しました。国別ではフランスでの調達が増加しました。2012年6月末時点でフランスの短期資金の54%を占めていたのに対し、9月末現在は約57%を占めています。

2011年6月以降、中央銀行への預金を除く短期資金は520億ユーロ削減されました。事業適応計画では2011年6月から2012年12月の間に450億ユーロの負債を削減することが目標となっています。

短期資金の減少は、事業適応計画に沿って必要とされる各事業部門の資金必要額約590億ユーロの段階的削減と並行して行われました。これは中央銀行へのレポやアクセスを通して使用した流動性準備金の増加によって一部相殺されました。

2012年9月末現在、中央銀行から即時利用可能な資産準備金、或は市場流動性のある割引換算後の資産準備金は、中央銀行への預金も含めて、2,010億ユーロに達しました。これには適格債権・証券による準備金の1,630億ユーロも含まれています。これらの資産準備金は、短期資金合計額の151%に相当し、中央銀行から即時利用可能な資産1,480億ユーロ(2012年6月30日時点では、1,350億ユーロ)を含んでいます。これは2011年6月30日時点比540億ユーロ増加しました。

手元流動性準備金は、中央銀行の適格要件を満たす市場流動性のある証券が770億ユーロ(準備金合計の38%)、中央銀行から即時利用可能な売掛債権が610億ユーロ(30%)、中央銀行への預金380億ユーロ(19%)、市場流動性のある証券が150億ユーロ(8%)、証券化及び再証券化商品が100億ユーロ(5%)から成ります。

中・長期資金調達では、クレディ・アグリコルS.A.はMTNプログラム設定額(2012年は120億ユーロ)以上の起債を行い、2012年1月1日から10月31日の間に171億ユーロを調達しました。発行済MTNの平均年限は6.4年で、平均スプレッドはミッド・スワップに対し125ベース・ポイントでした。

同時に、当グループは他の資金調達方法へのアクセスも開拓しています。それらはリテール銀行のネットワークと専門子会社による調達です。2012年9月30日現在、地域銀行によってほぼ33億ユーロを調達、LCLとカリパルマがそれぞれのネットワークを通して43億ユーロ調達、CA-CIB(主にプライベートプレースメント)によって49億ユーロ調達、クレディ・アグリコル消費者金融(主に債券発行と資産流動化による)を通して23億ユーロが調達されました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

2012 年度第 3 四半期のフランス国内リテール・バンキング部門の業績結果は例年のシーズン要因を反映しました。支店ネットワークの業績は、フランス経済が低迷する中で堅調な事業展開となりました。貸出/預金比率は、2011 年 6 月末時点の 130%から 2012 年 9 月 30 日現在には 124%へと低下し、6ポイント改善しました。2012 年 9 月 30 日現在のオン・バランスシートの預金は 4,060 億ユーロで、前年同期比 7.7%増加しました。この増加は定期預金の伸びに牽引されたもので、2011 年 9 月 30 日時点に対し 25.2%増、預金口座は同期比で 9.0%増加しました。

2012 年 9 月 30 日現在のローン残高は、前年同期比 1.3%増の 4,831 億ユーロとなりました。これは消費者ローンの伸びの減速を反映しています。消費者ローンは減速しましたが、住宅ローンは前年同期比 2.8%増加しました。

2012 年 9 ヶ月間の同部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比僅かに 3.2%の減少となりました。LCL の寄与は同期間でほぼ横ばい(0.9%減)で、関連会社の地域銀行のグループ帰属分は、4.7%減少しました。

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q3-12	Change Q3/Q3	9M-12	Change 9M/9M
Net income accounted for at equity-method (at about 25%)	211	(7.3%)	602	(5.7%)
Change in share of reserves	(1)	nm	153	(0.6%)
Share of income from equity affiliates	210	(3.5%)	755	(4.7%)

地域銀行は、バランスのとれた伸びを達成するという戦略を継続しました。

顧客預金は 5,632 億ユーロに達し、オン・バランスシートの預金は前年同期比 6.7%増の 3,264 億ユーロとなりました。この伸びは、主に定期預金(24.5%増)によるものです。2012 年度第 3 四半期の堅調な事業展開によって、2012 年 9 月末現在のオフ・バランスシートの顧客預金は、2011 年 9 月末時点の水準に回復し、2,368 億ユーロに達しました。

1 年間で顧客預かり資産残高は 4.6%増加し、市場が低迷する中でも生命保険(預金型)は前年同期比 1.1%増加しました。

ローン残高は2012年9月30日現在で3,949億ユーロに達し、2011年9月30日時点に対し1.7%増加しました。住宅ローンは3.0%増加しました。その一方で、スモール・ビジネスと法人顧客へのローン残高は

僅かに減少し、消費者金融残高も減少しました。

その結果、貸出/預金比率はさらに改善し、2011年12月末時点の129%から2012年9月末現在の126%へと低下しました。

2012年度第3四半期の地域銀行の収益(グループ内取引修正後)は、前年同期比3.3%増の34億ユーロに達しました。この増加は、2011年度第3四半期に比較して、手数料収入が2.7%減少したにも拘らず、利ざやが堅調だったことから顧客ビジネスからの収益が伸びたことによるものです。

2012年度第3四半期の費用は前年同期比5.9%増加しました。特殊税効果の倍増(4,200万ユーロ)と奨励金及び利益配当にかかる雇用主負担税(4,200万ユーロ)による影響を除いた場合、費用の増加は1.3%に留まりました。

2012年第3四半期の営業利益は安定し、1億5,500万ユーロのリスク関連費用差引後は12億9,100万ユーロとなりました。2011年度第3四半期のローン残高に対する営業費用は15ペーシス・ポイントだったのに対し、2012年度第3四半期は16ペーシス・ポイントでした。2012年9月末現在の不良債権比率は2.4%で、2010年度期末以降安定しています。不良債権に対する引当率(共同積立金を含む)は、2012年6月末時点の107.8%から2012年9月末現在には108.2%へと僅かに上昇しました。

結果的に、2012年度第3四半期の地域銀行のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は前年同期比3.5%減の2億1,000万ユーロとなりました。

1.2. - LCL

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-12	Change Q3/Q3	9M-12	Change 9M/9M
Revenues	959	+2.7%	2,972	+2.4%
Operating expenses	(637)	+2.5%	(1,883)	+1.5%
Gross operating income	322	+3.0%	1,089	+4.1%
Cost of risk	(90)	+46.0%	(234)	+8.0%
Operating income	232	(7.5%)	855	+3.1%
Net income on other assets	(1)	nm	(1)	nm
Pre-tax income	231	(7.7%)	854	+3.0%
Tax	(77)	(0.5%)	(286)	+11.8%
Net income	154	(11.0%)	568	(0.9%)
Minority interests	8	(10.5%)	28	(0.7%)
Net income Group share	146	(11.0%)	540	(0.9%)

景気が低迷する中で、LCLは引き続き、個人、法人、中小企業向けの顧客のファイナンスを支援しました。

2012年9月末現在のローン残高は、882億ユーロに達しました。住宅ローンは、2011年9月末から2012年9月末の間に2.0%増加しました。同期間の預金残高は、オン・バランスシートの預金と生命保険、証券に牽引されて5.4%の伸びを示しました。

貸出/預金比率は更に改善しました。その結果、事業適応計画が開始された2011年6月以来、14ポイント低下して、2011年6月末の129%から2012年9月末現在では115%となりました。

収益は前年同期比2.7%増加し、9億5,900万ユーロとなりました。この堅調な業績結果は力強い事業展開と金利収入の増加によるものです。金利収入は貸出金利差益の増加と資金調達削減によって、前年同期比8.7%増加しました。手数料収入は前年同期比4.6%の減少となりましたが、これは取引高、特に顧客の証券取引高の減少によってマイナスの影響を受けました。

特殊税効果(800万ユーロ)の増加と奨励金及び利益配当にかかる雇用主負担税(900万ユーロ)による影響を除いて、2012年度第3四半期の営業費用は前年同期比で横ばいとなりました。

リスク関連費用は2011年度第3四半期比で増加しました。2012年9ヶ月間累計のローン残高に対する不良債権比率は2.4%で安定し、引当率(共同積立金を含む)は2011年9月末時点の76.7%に対し、77.7%に増加しました。2012年度第3四半期中は特に大きな引当金の戻し入れはありませんでした。

全体では、2012年度第3四半期の純利益グループ帰属分は前年同期比11.0%減の1億4,600万ユーロとなりました。

2. 国際リテール・バンキング

2012年度第3四半期は、エンポリキの売却による影響を受けました。エンポリキ売却の関連全ての損失とコストが勘案され、当四半期の損益計算書に認識されました。2012年度第3四半期の当ビジネス部門の純利益グループ帰属分は、2011年度第3四半期の損失が2億8,500万ユーロだったのに対し、18億9,900万ユーロの損失となりました。2012年9ヶ月間累計では、2011年同9ヶ月間累計の損失9億8,200万ユーロに対して、29億8,500万ユーロの損失となりました。

(in millions of euros)	Q3-12	Change Q3/Q3*	9M-12*	Change 9M/9M*
Revenues	617	(0.2%)	1,861	+3.3%
Operating expenses	(390)	+0.8%	(1,229)	+6.7%
Gross operating income	227	(1.9%)	632	(2.7%)
Cost of risk	(115)	+2.7%	(360)	+17.5%
Operating income	112	(6.4%)	272	(20.8%)
Equity affiliates	(188)	nm	(136)	nm
Net income on other assets	(2)	nm	(2)	nm
Change in value of goodwill	-	-	-	-
Pre-tax income	(78)	nm	134	(67.2%)
Tax	(43)	+23.9%	(72)	(43.0%)
Net income from held-for-sale operations	(1,764)	x4.5	(3,033)	x2.3
Net income	(1,885)	x6.4	(2,971)	x2.9
Minority interests	14	nm	14	nm
Net income Group share	(1,899)	x6.7	(2,985)	x3.0

* 2011年度と2012年度はIFRS第5号に基づいてエンポリキが再分類修正されています。

イタリアでは、イタリア北部のカリパルマ独自の地域銀行ネットワークによって堅調な事業展開を見せ、脆弱な経済環境にも拘らず引き続き堅調でした。2012年9月末現在のローン残高はほぼ横ばいで、僅かに0.5%減の335億ユーロとなりました。2012年9月30日現在の顧客預金残高は355億ユーロに達しました。結果的に、2012年9月30日現在の顧客流動性剰余金は20億ユーロとなり、当グループの他の事業活動の資金源として活用されました。

資金流入は、オン・バランスシートの預金に加えて、証券、投資信託、生命保険の取引高増加に支えられました。

2012年度9ヶ月の営業利益は、4.4%²減少しました。

2012年度第3四半期の収益は、金利低下による影響を受けました。具体的には、2012年第3四半期の欧州銀行間取引金利(Euribor)3ヶ月物は2011年第3四半期に対して120ベース・ポイント低下しました。収益は、2011年度第3四半期比4.6%減の4億100万ユーロとなりました。

費用は抑えられて、2011年度第3四半期比1%減少しました(統合関連費用を修正後)。リスク関連費用は経済状況の悪化により再びマイナスの影響を受けましたが、2012年度第2四半期比では横ばいとなりました。2012年9ヶ月間累計では、リスク関連費用はローン残高の100ベース・ポイント、不良債権比率は7.8%でした。引当率は2011年度第2四半期の44.5%に対して43.3%となりました。

² 2012年第3四半期に計上された希望退職プランの費用、連結の会計範囲の変更、2011年の新規支店の統合関連費用を除く。

2012年度第3四半期のカリパルマの純利益グループ帰属分は、2011年度第3四半期の4,900万ユーロに対して2,700万ユーロとなりました。

カリパルマ・クレディ・アグリコルは、BancaFinanzaとLombardの2誌から2011年度のイタリアのベストバンクの一行であるとの評価を得ました。

ギリシャでは、クレディ・アグリコルS.A.がエンポリキの全株式をアルファ銀行への売却契約締結に至りました。当取引は、2012年10月15日にクレディ・アグリコルS.A.の取締役会によって承認されました。クレディ・アグリコルS.A.とアルファ銀行は、関係各省庁からの承認を前提として、2012年12月31日までに売却を完了する予定です。

同取引による影響は、**売却目的オペレーションの損益**として認識されており、売却完了までに生じる全ての損失とコストが勘案されています。2011年度と2012年度上半期の財務諸表は調整後ベースで作成されており、エンポリキの営業利益はIFRS第5号に基づいて売却目的のオペレーションの純利益に再分類されています。

2012年度第3四半期の純利益グループ帰属分の全損失は、海外のリテール・バンキングの17億5,900万ユーロとコーポレート・センターの2億ユーロを含めて、19億5,900万ユーロとなりました。

2012年9月末現在、エンポリキに対する資金供給額に対するクレディ・アグリコルS.A.のエクスポージャーは21億ユーロに達しました。エンポリキへの追加出資とアルファ銀行が発行予定の転換社債の引受けによって、現在までの資金供給額のうち約7億ユーロが即時減額されることになります。これによって、クレディ・アグリコルS.A.のエンポリキに対する資金供給の残額が調整後ベースで14億ユーロに削減される予定です。

更に、クレディ・アグリコルS.A.はエンポリキへの資本供給額の削減目標を発表しています。これは主にエンポリキの船舶ファイナンスローン・ポートフォリオの一部売却によるもので、米ドルで10億ドルを目標額としています。資金供給の残額は3回に渡り返済される計画で、最終は2014年末に予定されており、クレディ・アグリコルS.A.が選択する優良な資産によって保全されます。

エンポリキのリスク・ウェイト資産は、当取引の完了と同時に連結から除外されることになります。

イタリアとギリシャを除いて、当グループの他の部門の2012年9月30日現在のオン・バランスシートの預金残高とローン総残高は共に99億ユーロとなり、貸出/預金比率はバランスのとれた結果となりました。更に2012年度第3四半期は、永久劣後債の転換によってバンキンターが実施した株式の希薄化、続いて2012年8月10日の同株式の連結除外の影響を受けました。これにより、**関連会社株式損益**で

1億9,300万ユーロの損失を認識し、純利益グループ帰属分にも同様の影響が生じました。バンキンターを除いた場合、2012年第3四半期のその他の海外のリテール・バンキングの純利益グループ帰属分に対する寄与は2,600万ユーロのプラスに達しました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q3-12	Q3-12*	Change Q3*/Q3	9M-12	9M-12*	Change 9M*/9M
Revenues	821	833	(14.2%)	2,626	2,638	(11.2%)
Operating expenses	(395)	(395)	(4.8%)	(1,189)	(1,189)	(5.9%)
Gross operating income	426	438	(21.2%)	1,437	1,449	(15.1%)
Cost of risk	(423)	(442)	+36.7%	(1,492)	(1,193)	+19.3%
Operating income	3	(4)	nm	(55)	256	(63.8%)
Equity affiliates	4	4	+63.0%	14	14	+42.0%
Change in value of goodwill	(572)	(572)	nm	(572)	(572)	nm
Income before tax	(565)	(572)	nm	(613)	(302)	nm
Tax	(26)	(24)	(75.2%)	(63)	(144)	(44.4%)
Net income	(591)	(596)	nm	(676)	(446)	nm
Minority interests	(27)	(27)	nm	(140)	(37)	nm
Net income Group share	(564)	(569)	nm	(536)	(409)	nm

* 2012年度第1四半期、第2四半期のアゴスへの追加引当金と事業適応計画の影響額を再修正後

2012年度第3四半期の**専門金融サービス部門**は事業適応計画に沿って事業の縮小と流動性対応を継続し、資金調達源の多様化を図りました。2012年度第3四半期中は、クレディ・アグリコル消費者金融(CACF)の消費者信用残高が着実に削減されました。2012年9月30日現在、同残高は486億ユーロとなり、2012年度第3四半期の11億ユーロを含めて、2011年6月以降36億ユーロが削減されました。この減少は、3つの要因によるものです。それらは、信用供与のより厳格な基準設定、収益性の低いと判断されたパートナーシップの解消、不良債権の売却です。欧州の消費者信用市場の減速は消費者信用残高の減少に寄与し、イタリア国内の同残高は大幅に減少しました。CACFの管理する消費者信用残高は、連結分の残高とクレディ・アグリコル・グループ或は第三者に代わって管理している残高を含めて、742億ユーロに減少しました。地理的な内訳は前期とほぼ同じく、フランス国内の残高が38%、イタリアが35%(2012年度第2四半期比1ポイント低下)、その他の国が27%となっています。外部からの資金調達の多様化では、CACFはドイツでのリテールの資産管理業務の向上に取り組み、資産証券化と債券市場での自社債発行に力をいれました。

クレディ・アグリコル・リーシング & ファクタリング(CAL&F)もまた事業改善計画に沿って、貸出し資産の縮小と外部からの資金調達の多様化における取り組みを強化しました。その結果、2012年9月30日現在のリース・ファイナンスの運用資産は2011年9月30日時点比4.6%減の189億ユーロとなりました。この減少は、一部はフランス国内とポルトガルのローン・ポートフォリオを7月に3億ユーロ売却したこと

によります。従って、フランス国内での減少がより顕著となりました(2011年度第3四半期比-5.8%減)。2012年9月30日現在のファクタリングの売掛債権は、2011年9月30日時点に対し6.1%減の417億ユーロとなりました。

2012年9ヶ月間累計の当部門の業績結果は、イタリアの業績悪化により大幅な影響を受けました。2012年度第3四半期の収益は8億2,100万ユーロでした。これは取扱額の減少にマイナスの影響を受けたことによるものですが、一部は利ざやの増加によって相殺されました。また、フランス国内の監督規制(消費者金融法)やイタリアの監督規制(債務者用保険規制の改正)が収益に不利な影響を及ぼしました。最終的に、償還期限の長期化によるリファイナンス費用の増加も収益に影響を及ぼしました。事業適応計画の費用を除いて、収益は2011年第3四半期比14.2%の減少となりました。これに対応してCACFとCAL&Fは、運営効率を高めてビジネスの縮小による減益を補うために、積極的な費用削減対策を開始しました。その結果、2012年度第3四半期の費用は前年同期比4.8%減少しました。事業適応計画の影響額を除いた場合、2012年度第3四半期のリスク関連費用は36.7%増加しました。この傾向は様々な状況を反映していますが、CACFフランスでは2011年度第3四半期以降着実にリスク軽減が進められています。

一方で、海外ではアゴスの引当金が 高い水準となったことが業績に影響を及ぼしました。2012年度第3四半期は、アゴスのリスク関連費用は2億4,600万ユーロで、ローン残高の515ベシス・ポイントとなりました。2012年9月30日現在、アゴスの不良債権はローン残高の15.1%、カバー・レシオは90.2%となりました。

2012年度第3四半期のCAL&Fのリスク関連費用は前年同期比で大幅に改善しました。これはエンボリキ・リーシングの影響額が減少したことによるものです(2011年度第3四半期の2,600万ユーロに対し、2012年度第3四半期は1,100万ユーロ)。

全体では、2012年度第3四半期の専門金融サービス部門の純利益グループ帰属分は、消費者金融部門ののれんの減損処理費用5億7,200万ユーロ含めた-5億6,400万ユーロとなりました。

4. 資産管理(SAVINGS MANAGEMENT)

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。

2012年9月30日現在、当部門の総資産運用額は2011年12月31日時点に対し565億ユーロ増の1兆629億ユーロでした。この大幅な増加は、堅調な事業展開とマーケットの影響が極めてプラスの効果をもたらしたことによるものです。マーケット、会計範囲、為替による影響(合計+478億ユーロ)を除き、この伸びは主に資産運用部門の運用資産額(AUM)の増加によるものです(2011年12月末時点+107億ユーロ)。

当部門の純利益グループ帰属分は、CAアシュアランスがユーロ圏包括合意のギリシャ支援策に参加したことにより2011年度第3四半期では損失(純利益グループ帰属分では-5億300万ユーロを認識)

が出たのに対し、2012年度第3四半期は4億600万ユーロでした。2012年度9ヶ月累計では当ビジネス部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比66.2%増の12億7,400万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q3-12	Change Q3/Q3	9M-12	Change 9M/9M
Revenues	1,254	(7.1%)	3,856	(3.5%)
Operating expenses	(590)	(0.6%)	(1,784)	(2.7%)
Gross operating income	664	(12.3%)	2,072	(4.2%)
Cost of risk	3	nm	(52)	(94.1%)
Operating income	667	nm	2,020	+57.4%
Equity affiliates	3	(6.6%)	8	(1.2%)
Net income on other assets	-	nm	28	nm
Pre-tax income	670	nm	2,056	+59.2%
Tax	(223)	nm	(651)	+48.1%
Net income	447	nm	1,405	+64.9%
Minority interests	41	nm	131	+52.9%
Net income Group share	406	nm	1,274	+66.2%

資産運用部門では、2012年9月末現在のアムンディの運用資産は、2011年12月末時点比7.9%増の約7,110億ユーロとなりました。アムンディは競争力を強化し、フランス国内のマーケット・シェアは2011年12月から2012年12月の間に1.4%増の26.1%³に伸びました。フランス以外の欧州での事業展開は極めて高い成功を収めました。これはグループ外の販売会社と法人セグメントが大幅に増加したことによるものです(2011年12月比20.9%増)。アムンディは、日本、インド、韓国⁴において資金流入額で上位4社の一社に入りました。2012年度9ヶ月間の銀行支店ネットワークを除く新規流入純額は205億ユーロで、主にフランス以外の欧州の企業・法人セグメントに139億ユーロ、グループ外の販売会社セグメントに16億ユーロの新規資金流入がありました。従業員積立セグメントへの流入額は50億ユーロでした。2012年度第3四半期(-27億ユーロ)はこれまでよりも遅いペースでしたが、銀行支店ネットワークからの流出が引き続きありました(2012年9ヶ月間累計では-98億ユーロ)。全体では、2012年9ヶ月間累計の新規流入純額が107億ユーロ、マーケットと為替による影響額が+414億ユーロに達しました。

2012年度第3四半期の**アムンディ**の営業総利益は、金融危機で大きな影響を受けた前年度第3四半期と比較しても、+34.9%の増加を計上しました。

³ 出典: ユーロパフォーマンス2012年9月フランス国内のオープン・エンド型ファンド

⁴ 出典: ストラテジック・インサイト、2012年6月のオープン・エンド型ファンド

2012年9ヶ月累計では、営業総利益が+14.8%増の5億2,800万ユーロに達しました(特定項目算入前は+1.8%)⁵。これは、パフォーマンスに基づいた手数料が極めて好調だったことによるものです(2011年9ヶ月間累計では5,300万ユーロだったのに対し、2012年9ヶ月累計は1億700万ユーロでした)。

コスト比率は2011年9ヶ月累計比1.6%改善し、54.8%⁴と極めて競争力の高い水準を維持しました。その結果、アムンディの純利益は3億6,400万ユーロに達し(前年同期比12.4%増)、純利益グループ帰属分は2億6,700万ユーロ(12.6%増)でした。そのうちの8,100万ユーロは第3四半期分です。

資産運用サービス部門では、CACEISが年初以来堅調な事業展開を続けています。CACEISでは内部成長によりカストディーと資産管理の2つの事業セグメントが事業部門として成功を収めました。更に、CACEISはマーケットの影響が有利に作用したことで、債券部門(長期金利が堅調傾向にある)と株式部門(2011年12月以降CAC40は6%上昇)の両方が恩恵を受けました。結果的にカストディー資産は1年間で7.2%増の2兆4,260億ユーロに増加し、預かり資産は同期間で5.5%増の1兆1,290億ユーロに達しました。

2012年9ヶ月累計の純利益グループ帰属分は、第3四半期の4,200万ユーロ(前年同期比27.2%増)を含め、1億2,200万ユーロとなりました。

プライベート・バンキングは、金融危機が続く中で堅調な事業展開を見せました。オン・バランスシート商品は他商品との競争力においてマイナスの影響を受け、2012年9ヶ月累計で資産流出額が23億ユーロとなりましたが、この流出の速度は昨年と比べて四半期ごとに緩やかになってきています。2012年9月30日現在のプライベート・バンキングの運用資産は、マーケットと為替によるプラスの影響によって2011年12月31日時点比3.2%増の1,304億ユーロとなりました。その結果、2012年9ヶ月累計のフランス国内の運用資産は1.7%増の582億ユーロに達しました。海外では、同期間の累計運用資産は4.5%増の722億ユーロに達しました。

2012年9ヶ月累計の純利益グループ帰属分は8,700万ユーロに達しました。これには第3四半期の純利益帰属分3,000万ユーロ(2011年度第3四半期比10.6%増)が含まれています。

保険部門では、2012年度第3四半期の保険料収入が51億ユーロとなり、マーケットごとに異なる傾向を見せました。フランス国内の生命保険は上向き傾向を辿りました。数ヶ月間、保険料収入の減少が続いた後で、第3四半期にはビジネスが安定し、2011年度第3四半期と比べて保険収入の減少率が3.8%に抑えられました。当グループの保険料収入は新規流入純額でプラスとなり、9ヶ月累計で4億ユーロに達しました。

損害保険は、フランス国内で引き続き伸びを見せ、2012年度第3四半期の保険料収入が、前年同期比5.9%増の4億8,600万ユーロとなりました。2012年9ヶ月累計では、保険料収入が前年同期比6.6%増

⁵ 2012年度第3四半期に計上した売却益6,000万ユーロを再修正後。

加し、同期間のマーケットの平均伸び率4%を上回りました(出典: FFSA)。保険契約の数は900万の目標を超えました。団体信用保険では、住宅ローンの伸びによって保険料収入が2億4,600万ユーロと引き続き堅調な事業展開でした。海外の事業(2012年度第2四半期から連結除外となったBES Vidaを除く)は、2011年度第3四半期比4.2%増の8億4,100万ユーロと引き続き回復傾向にあります。

保険事業は保険契約の管理と質の高さを認められて、専門メディアから50の賞を授与されました。

生命保険の運用資産は、ユニットリンク型保険の412億ユーロを含めて、2011年9月30日時点比2.5%増の2,218億ユーロに達しました(BES Vidaを修正)。

2012年度第3四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、2億5,200万ユーロでした。

収益は、不利なベース効果によって、2011年度第3四半期比23.2%減の5億2,000万ユーロとなりました。第3四半期の営業費用は抑えられて横ばいとなりました。これは税務基準額から控除できるPSI損失に関連する特別利益を除きます。フランス国内の損害保険の保険料請求に対する支払い件数の割合(再保険後)は厳しく抑えられ、第3四半期は70.6%でした。71.1%だった2011年度第3四半期に対し0.5%の改善が見られました。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

注記: 2011年度、2012年度の全ての数値は、2012年度第3四半期に認識された非継続事業へのファイナンス事業、資本市場及び投資銀行部門からの非継続事業への譲渡を調整後ベースで示してあります。詳細は10月5日のプレス・リリースをご覧ください。プレス・リリースも2012年度第3四半期のCAシュブルーは、IFRS第5号に基づいて調整後ベースで表示されています。

法人営業及び投資銀行部門の純利益グループ帰属分は2012年度第3四半期が-3億2,300万ユーロ、2012年9ヶ月累計が1億2,200万ユーロとなりました。

2012年度第3四半期の**継続事業**の純利益グループ帰属分は-3億200万ユーロでした。これには、第3四半期の発行済社債とローン・ヘッジの再評価によるマイナスの結果(-4億2,600万ユーロ)、事業適応計画の僅かな影響額(-2,000万ユーロ)、継続中のCAシュブルーの売却に伴う推定影響額(-1億8,100万ユーロ)が含まれています。これら3つの項目を修正後、2012年度第3四半期の継続事業の純利益グループ帰属分は、前年同期比15.0%減の3億2,500万ユーロとなりました。

これらの結果は、2012年第3四半期にはより堅調な市場環境において、資本市場での活動が回復してきていることや、ファイナンス事業の業績が良好であることを反映しています。ファイナンス事業は、「Distribute to Originate」という新たなビジネス・モデルの導入と、バランスシートの効率的利用に恩恵を受けています。2012年度第3四半期の営業費用は前年同期比6.8%減少しました(一定の為替レートの

下で、特殊税効果を再修正後)。2012年度第3四半期のリスク関連費用は2011年の第3四半期の費用の戻し入れ(純額)後、低い水準を維持しました。

2012年度第3四半期中の**非継続事業**の費用は低い水準を維持しました(純利益グループ帰属分では-2,100万ユーロ)。

継続事業

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-12	Q3-12*	Change Q3*/Q3*	9M-12	9M-12*	Change 9M*/9M*
Revenues	501	1,216	+0.3%	3,187	3,665	(7.2%)
Operating expenses	(730)	(730)	+1.0%	(2,232)	(2,232)	+0.8%
Gross operating income	(229)	486	(0.7%)	955	1,433	(17.5%)
Cost of risk	(68)	(68)	nm	(184)	(184)	+63.1%
Operating income	(297)	418	(18.5%)	771	1,249	(23.1%)
Equity affiliates	35	35	(0.5%)	115	115	+11.5%
Net income on other assets	(1)	(1)	nm	11	11	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Pre-tax income	(263)	452	(17.4%)	897	1,375	(20.1%)
Tax	141	(117)	(25.6%)	(225)	(398)	(26.5%)
Net income from held-for-sale operations	(184)	-	nm	(186)	-	-
Net income	(306)	335	(14.5%)	486	977	(16.4%)
Minority interests	(4)	10	+2.6%	15	26	(11.7%)
Net income Group share	(302)	325	(15.0%)	471	951	(16.6%)

* 社債発行とローン・ヘッジの再評価の修正後。事業適応計画とCAシュブルーによる影響額算入前。

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q3-12	Q3-12*	Change Q3*/Q3*	9M-12	9M-12*	Change 9M*/9M*
Revenues	499	568	(16.6%)	1,593	1,651	(16.0%)
Operating expenses	(230)	(230)	+3.5%	(694)	(694)	+3.1%
Gross operating income	269	338	(26.3%)	899	957	(25.9%)
Cost of risk	(63)	(63)	nm	(174)	(174)	+54.7%
Operating income	206	275	(42.4%)	725	783	(33.6%)
Equity affiliates	36	36	+3.5%	116	116	+11.7%
Net income on other assets	-	-	-	1	1	nm
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	nm
Pre-tax income	242	311	(39.1%)	842	900	(29.4%)
Tax	(95)	(120)	(10.6%)	(268)	(289)	(29.5%)
Net income from held-for-sale operations	-	-	nm	-	-	nm
Net income	147	191	(49.2%)	574	611	(29.3%)
Minority interests	3	4	(56.3%)	12	13	(35.7%)
Net income Group share	144	187	(49.1%)	562	598	(29.1%)

* ローン・ヘッジを再修正後、事業適応計画の影響額算入前。

2012年度第3四半期中は、**ファイナンス事業**の収益は安定しました。一方、現金需要は2011年12月末時点比で75億ユーロ減少しました。事業適応計画の下でのローン売却は第3四半期中も継続して行われ、9億ユーロが売却された結果、(2011年度中の売却も含めて)売却ローンは平均2.3%のディスカウント率で合計99億ユーロに達しました。更に、2011年12月14日に発表されたように、「Distribute to Originate」という新たなビジネス・モデルは第3四半期中に徐々に展開され、最初のパートナーシップがプレディカ(Predica)並びにアクサ(Axa)と締結されました。

2012年第3四半期中のストラクチャード・ファイナンスの収益は回復し、2012年度第2四半期の2億8,800万ユーロから3億1,800万ユーロへと増加しました(ローン・ヘッジと事業適応計画の影響額を再修正後)。CA-CIBはEMEA地域でのプロジェクト・ファイナンス部門では第2位を維持し、同じくEMEA地域の買収ファイナンスでは2位に上昇しました(出典:トムソン・ファイナンシャル)。

商業銀行部門では、2012年度第3四半期の収益は、2012年度第2四半期の2億3,800万ユーロから2億5000万ユーロに増加しました(ローン・ヘッジと事業適応計画の影響額を再修正後)。CA-CIBは、フランス国内とEMEA地域のシンジケーション部門で第1位を維持しました(出典:トムソン・ファイナンシャル)。

2012年度第3四半期の収益は4億9,900万ユーロに達しました。これは事業適応計画に従って実行さ

れたローン売却の費用(−3,300万ユーロ)を含みます。一方ローン・ヘッジにより2012年度第2四半期にはプラスの影響額7,200万ユーロが生じたのに対し、当期は3,600万ユーロのマイナス影響額が生じました。

リスク関連費用は2011年度第3四半期に1,700万ユーロの戻し入れがあったのに対し、2012年度第3四半期は特に大きな特定引当金はなく、純額で6,300万ユーロとなりました。リスク関連費用は、2012年度第2四半期はローン残高の29ベース・ポイントだったのに対し、2012年度第3四半期は22ベース・ポイントとなりました。

全体では、2012年度第3四半期のファイナンス事業の純利益グループ帰属分は1億8,700万ユーロとなり、ローン・ヘッジと事業適応計画の影響を再修正後、前年同期比49.1%の減少となりました。

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q3-12	Q3-12*	Change Q3*/Q3*	9M-12	9M-12*	Change 9M*/9M*
Revenues	2	648	+22.0%	1,594	2,014	+1.4%
Operating expenses	(500)	(500)	(0.1%)	(1,538)	(1,538)	(0.2%)
Gross operating income	(498)	148	x4.9	56	476	+6.7%
Cost of risk	(5)	(5)	nm	(10)	(10)	nm
Operating income	(503)	143	nm	46	466	+4.6%
Equity affiliates	(1)	(1)	nm	(1)	(1)	nm
Net income on other assets	(1)	(1)	nm	10	10	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Pre-tax income	(505)	141	nm	55	475	+6.2%
Tax	236	3	nm	43	(109)	(17.3%)
Net income from held-for-sale operations	(184)	-	nm	(186)	-	nm
Net income	(453)	144	nm	(88)	366	+19.7%
Minority interests	(7)	6	nm	3	13	+38.2%
Net income Group share	(446)	138	x9.4	(91)	353	+19.1%

* 発行済社債の再評価を再修正後、CA シュブルーと事業適応計画の影響額控除前。

資本市場及び投資銀行部門の収益には、第3四半期の発行済社債の再評価によるマイナスの影響額6億4,600万ユーロが反映されました。この影響額は2012年度第3四半期のクレディ・アグリコル S.A. のリファイナンス条件の改善を反映しています。この影響額を再修正後、収益は前年同期比22.0%の増加の、6億4,800万ユーロとなりました。

第 3 四半期は、全般的に金融緩和傾向が続いた環境において資本市場事業は堅調な展開を見せました。収益は、社債発行の再評価と事業適応計画の影響を再修正後、2012 年度第 2 四半期(2 億 9,000 万ユーロ)比大幅に増加し、4 億 1,800 万ユーロとなりました。その結果、2012 年度第 3 四半期には、CA-CIB 債券部門では、債券市場の復活と新発債の大量起債、とりわけソブリン債の起債が大きかったことから、優れた業績結果を達成しました。CA-CIB は、全ユーロ債新発債のリーグ・テーブルにおいて第 4 位となりました(出典:トムソン・ファイナンス)。更に、債券市場とクレジット・デリバティブ市場では、クレディ・アグリコル S.A.の CDS のスプレッドが縮小したことにより、アジアの投資家の動きが復活しました。

IFRS 第 5 号に基づいて CA シュブルーを計上した後で、投資銀行部門 CLSA とニューエッジから構成される株式部門では、収益は 2 億 3,000 万ユーロで、第 2 四半期比横ばいとなりました。ブローカレッジ業務の取引額は引き続き低い水準となりました。2012 年度第 3 四半期に認識された CA シュブルーの継続中の売却の推定影響額は、純利益グループ帰属分では-1 億 8,100 万ユーロでした。これには、2012 年度第 3 四半期の-1,400 万ユーロと事業再編の引当金を含む推定売却損失-1 億 6,700 万ユーロが含まれます。

2012 年 9 月 30 日現在の最大損失予想額(VaR)は、1,400 万ユーロでした。

非継続事業

(in millions of euros)	Q3-12	Q3-12*	Change Q3*/Q3	9M-12	9M-12*	Change 9M*/9M
Revenues	75	75	nm	(221)	143	nm
Operating expenses	(79)	(79)	(14.5%)	(236)	(236)	(22.5%)
Gross operating income	(4)	(4)	(98.5%)	(457)	(93)	(71.8%)
Cost of risk	(10)	(10)	(90.3%)	(104)	(65)	(63.6%)
Operating income	(14)	(14)	(95.8%)	(561)	(158)	(68.9%)
Equity affiliates	-	-	nm	-	-	nm
Net income on other assets	1	1	nm	1	-	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Pre-tax income	(13)	(13)	(95.8%)	(560)	(158)	(68.9%)
Tax	(8)	(8)	nm	184	40	(72.9%)
Net income from held-for-sale operations	-	-	nm	-	-	nm
Net income	(21)	(21)	(91.0%)	(376)	(118)	(67.3%)
Minority interests	-	-	nm	(27)	(21)	(8.4%)
Net income Group share	(21)	(21)	(90.5%)	(349)	(97)	(71.3%)

* 事業改善計画による影響額を再修正後。

第3四半期の非継続事業の純利益グループ帰属分は、再び僅かに留まりました。事業適応計画に関連した影響は無く、-2,100万ユーロでした。

2012年第3四半期は、非継続となる新規事業部門の収益は、非継続事業が計上した7,500万ユーロのうち、2,500万ユーロとなりました。2011年度第3四半期から2012年度第3四半期の間に、非継続事業部門の収益に対する影響は、四半期毎に-800万ユーロから+1,000万ユーロのレンジとなりました。

6. コーポレート・センター

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-12	Change Q3/Q3	9M-12	Change 9M/9M
Revenues	(795)	x2.3	(1,036)	+53.4%
Operating expenses	(222)	(1.4%)	(662)	(4.1%)
Gross operating income	(1,017)	+77.8%	(1,698)	+24.3%
Cost of risk	(260)	x6.1	(269)	x3.4
Operating income	(1,277)	x2.1	(1,967)	+36.2%
Equity affiliates	(46)	+93.2%	(98)	x4.1
Net income on other assets	44	nm	40	nm
Income before tax	(1,279)	x2.0	(2,025)	+37.5%
Tax	482	+53.4%	486	(14.9%)
Net income	(795)	x2.4	(1,539)	+69.8%
Minority interests	33	(33.6%)	120	(13.2%)
Net income Group share	(828)	x2.2	(1,659)	+58.8%

2012年度第3四半期の収益は、2011年度第3四半期の-3億4,800万ユーロに対して、-7億9,500万ユーロに達しました。Intesa Sanpaolo(インテサ・サンパオロ)とFransabankの株式の売却で生じた5,200万ユーロによって、当四半期中の収益が影響を受けました。更に、ユニットリンク型契約の保険契約者の名義でプレディカが保有していた自社債のグループ内消却により、当期中のコーポレート・センターの受けたマイナス影響額は3億7,100万ユーロでした(純利益グループ帰属分では-2億4,300万ユーロでした)。消却された証券の額面金額は2012年9月30日現在で68億ユーロとなり、今後消却予定の残額は-2,100万ユーロになります。

この再修正によって、2012年度第1四半期には純利益グループ帰属分に対して-1,700万ユーロの影響額、2012年度第2四半期には+6,800万ユーロの影響額が生じました。

2012年第3四半期の営業費用は、前年同期比1.4%減少し、2012年9ヶ月累計では4.1%減少しました。リスク関連費用は、エンポリキのアルファ銀行への売却に関連する2億ユーロの影響額を反映しています。

全体では、発行済債券のスプレッドとエンポリキ関連の費用を再修正後、コーポレート・センターの純利益グループ帰属分は-3億8,500万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

(in millions of euros)	Q3-12	Change Q3/Q3*	9M-12	Change 9M*/9M*
Revenues	7,039	(17.9%)	24,169	(7.8%)
Operating expenses	(5,150)	+2.3%	(15,388)	+1.0%
Gross operating income	1,889	(46.7%)	8,781	(20.0%)
Cost of risk	(1,129)	(26.8%)	(3,432)	(9.1%)
Operating income	760	(62.0%)	5,349	(25.7%)
Equity affiliates	(171)	nm	(34)	nm
Net income on other assets	49	nm	89	nm
Change in value of goodwill	(572)	nm	(578)	nm
Pre-tax income	66	(96.7%)	4,826	(34.3%)
Tax	(259)	(54.0%)	(2,009)	(14.3%)
Net income from held-for-sale operations	(1,945)	nm	(3,219)	x2.3
Net income	(2,138)	nm	(402)	nm
Net income Group share	(2,207)	nm	(540)	nm

* 2011 年度と 2012 年度は IFRS 第 5 号に従ってエンポリキとシュブルーが修正再表示されています。

第 3 四半期はエンポリキの売却や事業適応計画の成功、クレディ・アグリコル S.A. の事業の見直しなどにおいて著しい前進を遂げました。同計画は既に目標値を上回っています。エンポリキ関連の損失にもかかわらず、当グループの財務健全性は強化され、コア・ティア 1 レシオ（バーゼル 2.5）は 11.3% となり、2011 年末時点比 110 ベーシス・ポイント向上し、2012 年 6 月末時点からも安定推移しました。

地域銀行は堅調な業績を維持しました。預金残高は前年同期比 3.8% 増加し、ローン残高も前年同期比 1.7% 増加しました。貸出/預金比率は 2011 年 12 月以降 3 ポイント改善しました。2012 年度第 3 四半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は前年同期比 3.9% 増の 8 億 5,300 万ユーロに達しました（100%IFRS に準拠）。2012 年 9 ヶ月累計の純利益グループ帰属分は 26 億 8,700 万ユーロに達しました。

2012 年度第 3 四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、前年同期比 17.9% 減の 70 億 3,900 万ユーロでした。2011 年度第 3 四半期には社債発行の再評価によるプラスの影響額が 4 億 600 万ユーロあったのに対し、2012 年度第 3 四半期は同再評価によりマイナスの影響額が 10 億ユーロ以上含まれました。

費用は抑えられ、以下のように引き続き安定しました。

リスク関連費用は 2011 年度第 3 四半期比 26.8%減少しました。これには欧州包括合意によるギリシャ支援策の影響額 7 億 6,400 万ユーロが含まれていました。2012 年度第 3 四半期のリスク関連費用は前年同期と同じくローン残高の 50 ベーシス・ポイントでした。

消費者金融部門ののれんの減損処理費用-5 億 7,200 万ユーロと売却予定事業の純利益-19 億 4,500 万ユーロ(エンポリキと CA シュブルーの売却に伴う損失予想額含む)を控除後、2012 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は-22 億 700 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.の 2012 年第 3 四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders の財務情報で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A.により公開されています。

INVESTOR RELATIONS +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+33 (0) 1 43 23 26 78	Fabienne Heureux	+33 (0) 1 43 23 06 38
Nathalie Auzenat	+33 (0) 1 57 72 37 81	Marie-Agnès Huguenin	+33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+33 (0) 1 57 72 23 46	Aurélien Marboeuf	+33 (0) 1 57 72 38 05